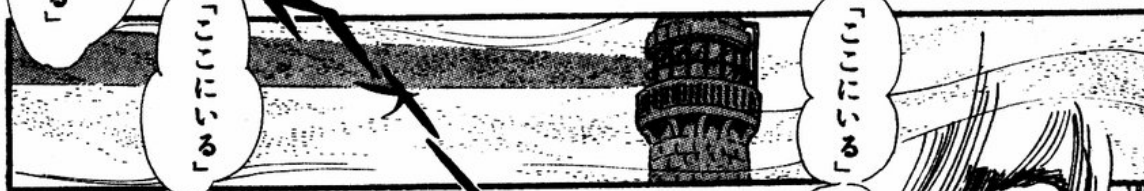
霧笛

オ――オオオオ
…さみしい暮らしだが

もうなれたろう？
どうだいージョニー？
明日はきみが
上陸する番だな
さらばしばしの
灯台暮らし
女の子とダンス
かるくジンでも
ひっかけて
いいなァ
でもマックダン
ぼくがいなくなって
ここでひとりに
なってしまったら
どんな気分に
なります？
ええマックダン
あなたが
…話上手だから
このさまざまな
海のふしぎの中で？
まあここは…
さみしい場所だ
陸からは
2マイルも
へだたり
その
沿岸には
町ひとつない
路が一本
通ってるきり
岬を回る船影も
遠くめったに
見えないしね
さまざまな
海のふしぎ…な
できごと…か

…そう
海ってのは…
むかしえらく
大きな
雪片(スノーフレイク)だったの
かもしれ
ないね
あの変化
あの色あい
同じものは
ふたつとない
ふしぎだな
そう 数年前だがね
ジョニー ある晩
たくさんの魚がね
この入江にやってきた
なんだろうね
ひたひたと
水うちながら
魚の群れがさ…
水面から
目をあげて
……じっと…
こわごわと
灯台の光を
見てるのさ
いったい魚どもには
この高い灯台が
何と見えた
ことか?
赤・白・赤と
点滅する光が
何と見えたか?
もう夜半すぎて
コソとも
音をたてずに
1匹残らず
いなくなった
へんな話だ
ろう? なあ
やつらは
この灯台を
神様だとでも
信じこんで
はるばる
参拝しに
きたのでは
ないかね
もう二度と
やつらは
現れないがね…

マックダン？
……とにかく海にはいろいろなものがふんだんにある
なにせ
古い世界だからね
…われわれ人間よりも古い世界だからね…
おれたちがそのふしぎを手に入れるまでには
まだ何百万年もかかるだろうな…
海底ではいまでも紀元前30万年前と同じ状態なんだ……
陸の人間がラッパ吹き首切り行進してるあいだ
魚や海のものたちはそんなふかい海底で
はるか昔から暮らしていたんだ
……ええ
古い世界ですね
ジョニー……ちょっときたまえ
今日話そうと思ってたとっておきの話があるんだ

グルオオオ
まるで動物だな
夜鳴きする
大きな
動物だ
グオオオオオ
時間
百万年という
時の果ての
現在に腰を
おろし
「おれは
ここにいる」
「ここにいる」
「ここにいる」と
鳴いている
そうすると
海の底が
返事をする
……
返事を
する

ジョニー
きみはここにきて
もう3か月になる
……それで
覚悟してくれ
毎年この時季
この灯台を
訪れるものが
あるんだ
魚の群れ？
いや
べつのやつだ
おれの頭が
おかしいと
思うだろうな
だから
話すまいと
思っていたが
…そうも
いかん…
おれのつけた
カレンダーに
よるとそいつは
今夜やってくる
何です？
いったい
ジョニー
もし
そうしたけりゃ
明日にでも
荷物まとめて
モーターボートで
陸へあがり
車とばして
遠い町へいって
毎晩電気つけて
暮らしてもいいんだぜ
おれは
なにも
いわんから
な
ガ
…もう3年も
前からさ　だが
証人になってくれる
人間がいるのは
今晩が
初めてさ
マックダン
もう少し
まってな

…むかし
ある日
男がひとり
やってきて
その岬の
波のどよめく
陽のささぬ
浜辺に立って
こういった
「…この海原ごしに
呼びかけて
船に警告してやる
声が要る
その声を
つくってやろう」
……

これまでに あった どんな時間
どんな 霧にも
似合った声を つくって やろう
たとえば 夜ふけてある
きみのそばの からっぽのベッド
訪うて 誰も人の いない家
また 葉のちって しまった 晩秋の木々に
似合った…
そんな音を つくってやろう…

鳴きながら南方へ去る鳥の声
11月の風や…
さみしい浜辺によする波に似た音
そんな音をつくってやろう
それはあまりにも孤独な音なので誰もそれを聞きそらすはずはなく
それを耳にしてはだれもが心ひそかにしのび泣きをし
遠くの町で聞けばいっそう我家があたたかくなつかしく思われる……
そんな音をつくってやろう
おれは我と我身をひとつの音ひとつの機械としてやろう
そうすればそれを人は
霧笛と呼び

それを聞く人はみな
永遠というものの
悲しみと
生きることの
はかなさを
知るだろう
…こいつは
おれの
つくった
つくり話さ
なぜやつが
やってくるのか
そのわけを
考えてみたんだ
…思うに
霧笛
が…
でも
マックダン
……シッ！

ピカッ

ザザザ

おちつけ!
はっ
は?
!?
あ!
あ!
あれ
あんな
きみょうな
き き
き き
きみょうな
あれは
きみょうでも
なんでもない!
ジョニー!
ジョニー!
きみょうなのは
おれたちさ!
あれは
千万年前の
姿とちっとも
かわらない!
かわって
しまったのは
おれたちだ!
おれたちの
ほうなんだぜ
!
恐竜…
だな?
ああ!
死にたえて
しまった
はずなのに!
かくれて
いたんだ

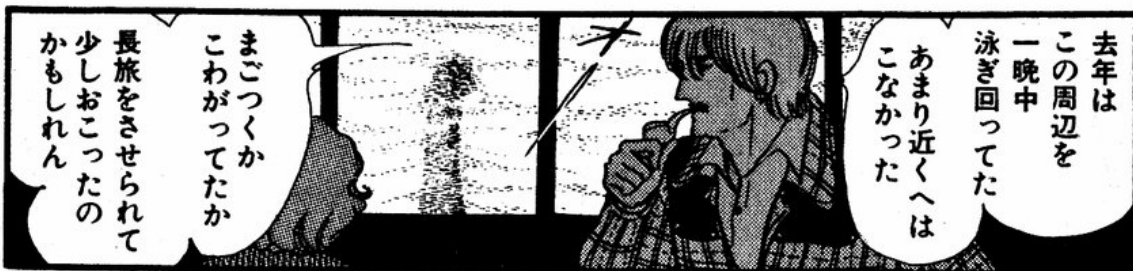
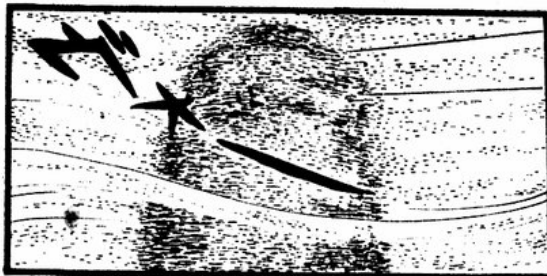
深海に
海のおくのおくの　おく
……この世の闇と深さと冷たさを結集したような
一番ふかいおくそこに……
マックダン！どうしましょう！
どうも！
逃げるわけにいかんよわれわれには任務がある
それにここにいたほうがずっと安全だ百フィートはあるぜ！遠いだろうな
ででもなんだって
あれはここへくるんですなぜここへ…

…霧笛が
霧笛が呼ぶんだ

やつは遠くからきたんだ
遠く……
ふかいところから
千マイルもむこう
20マイルもふかい海底から
…百万年もの時をへて……
そんなに長い間待っていた
あれは最後の1匹だ
ジョニー……きみなら
百万年も待てるか？
…ここに5年前に人がきてこの灯台を建てた
そして霧笛をそなえつけ
どうきみ
きみはねむっている
それを鳴らすんだ
ふかい海の底で
遠い世界の夢なぞを見ている

むかし
きみの同胞が
千匹もいた
ころの夢
いまこの世界に
きみのいる場所は
ない
きみは
かくれて
いなけりゃ
ならない
…そこへ
むけて
霧笛を
ならすんだ…
ウオオ
ウオオオ
それは
ウオ
ひびいては消え
ひびいては消える
きみは
目ざめ
ゆっくりと
動きだす

あとどれほどの
時間が要る
ものか
水圧に体を
ならしながら
すこしずつ
すこしずつ
上昇する
いっぺんに
上がったら
体がはれつして
しまうからね
3か月ほども
かかるだろう
海面に
やっと出て
その上
つめたい
水を
千マイルも
こえてくる
いく日も
いく日も
かかって
そして
やっと
やってくる
やって
くる
……
…あれは
まっていたんだ
なんと
長い間

地球が変化し
まわっている間
なにもかもが
死にたえ
生まれ
かわって
ゆく時の中
けっして
帰らぬものの
帰りをあれは
まっていたん
だ
去年は
この周辺を
一晩中
泳ぎ回ってた
あまり近くへは
こなかった
まごつくか
こわがってたか
長旅をさせられて
少しおこったの
かもしれん
ところがあくる日は
カラリと晴れて
青空さ
で やつは
帰っちまって
こなかった
彼は考えたのさ
この1年はじっくり
十分日を選んで
やってきた
きみの人生なんて
そんなものさ
二度と
帰ってこないものの
帰りをまっている
あるものを
それがきみを
愛してくれるより
ずっと
ずっと
愛している!
ところが

しばらくするとそいつを滅ぼしたくなっちまう！自分が二度と愛するもののために傷つくことのないように！

何がおこるか見てやろう！
マックダン！

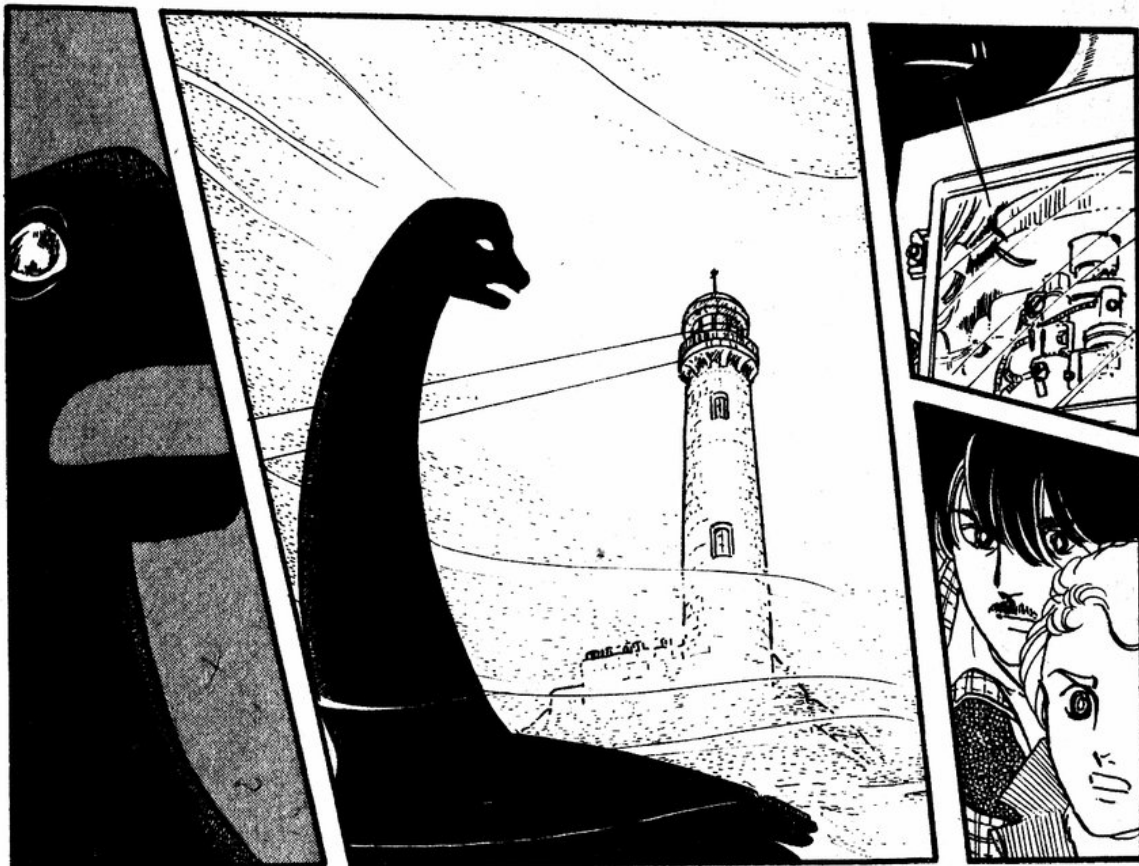
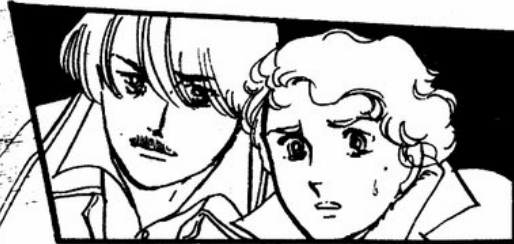
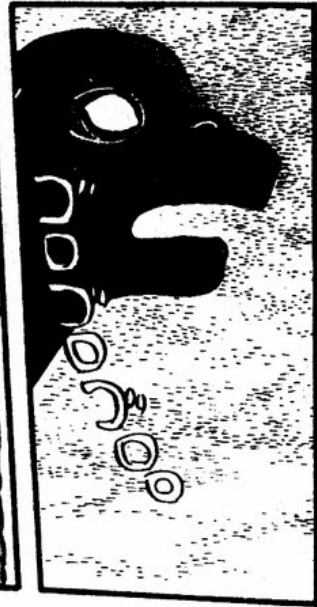
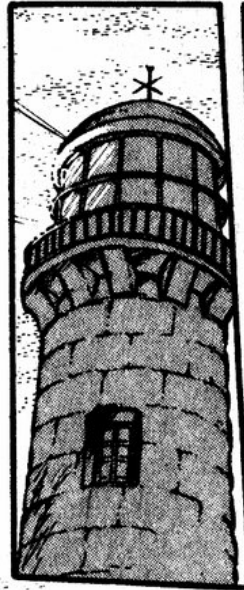
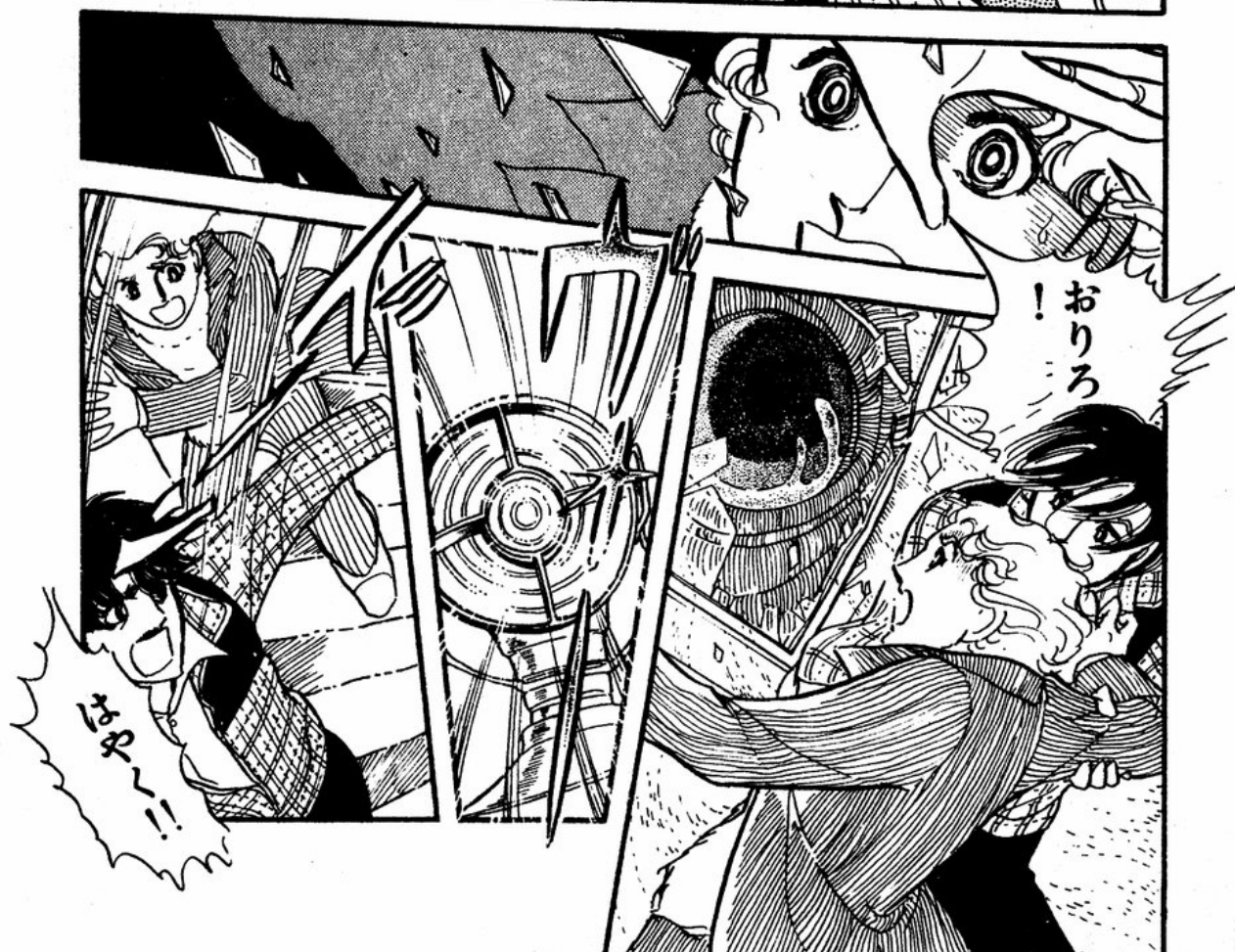
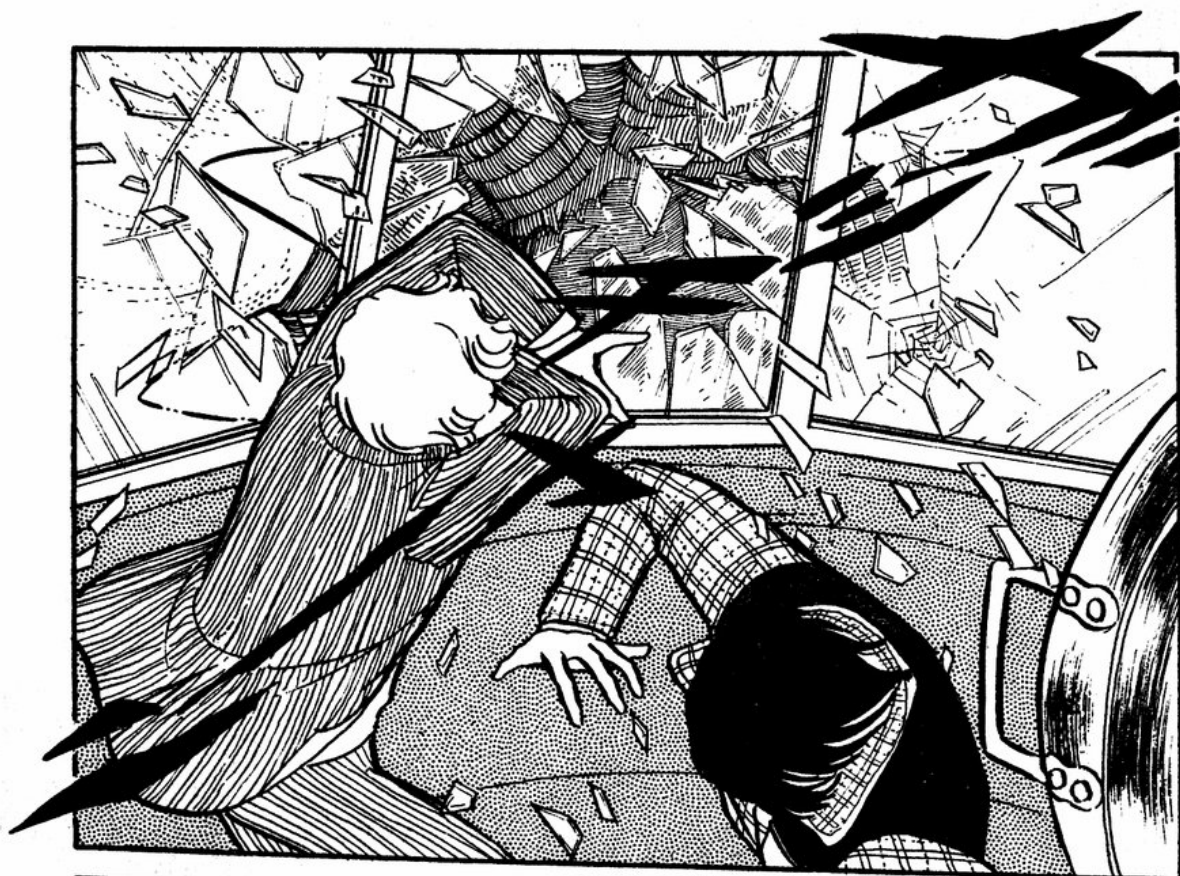
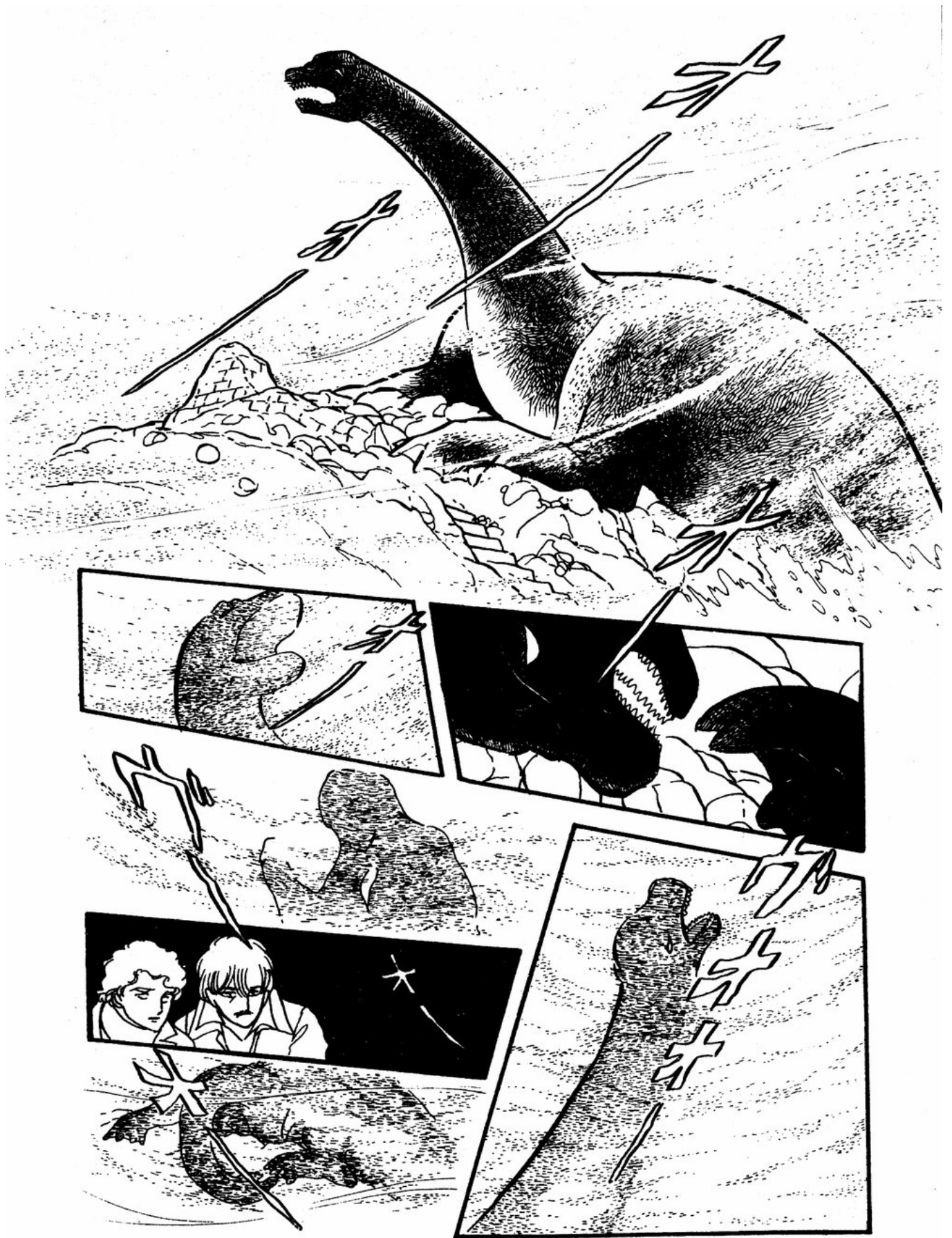
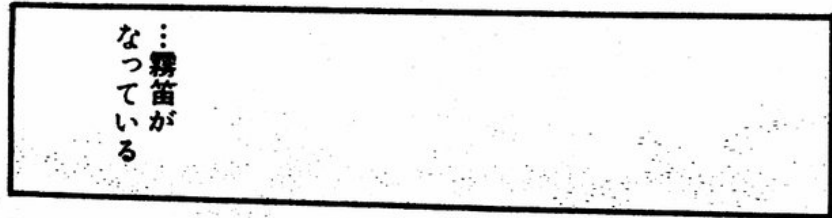
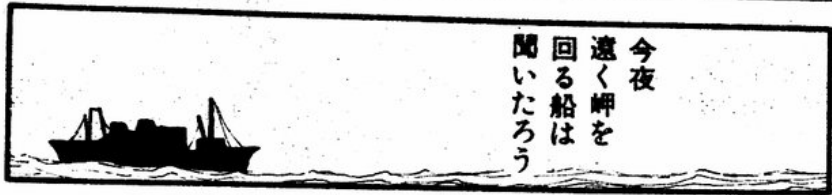
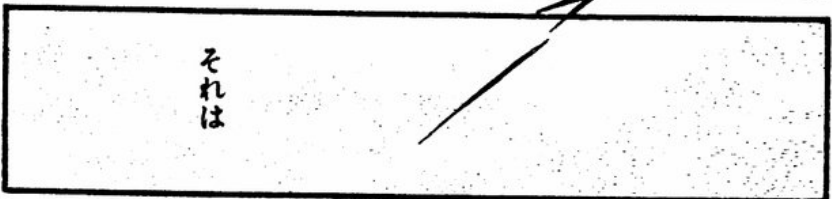
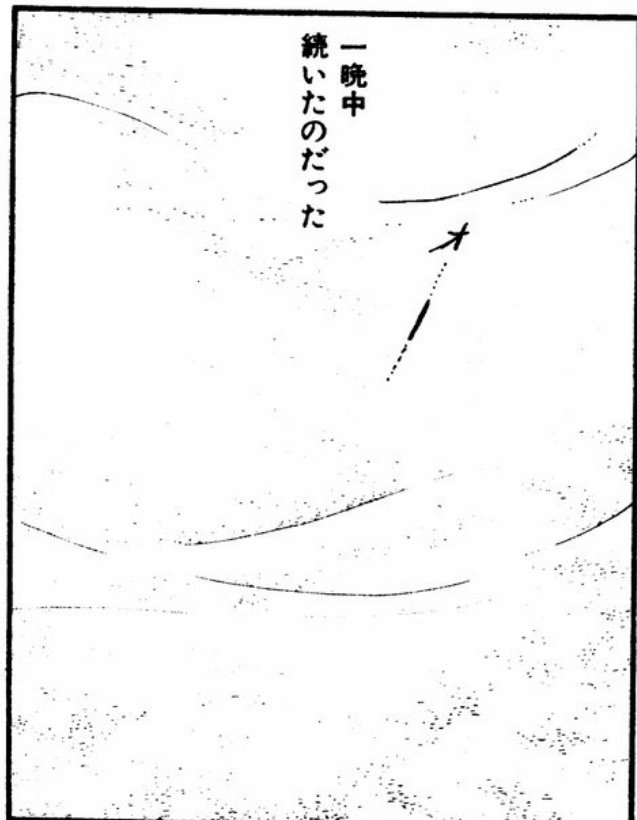
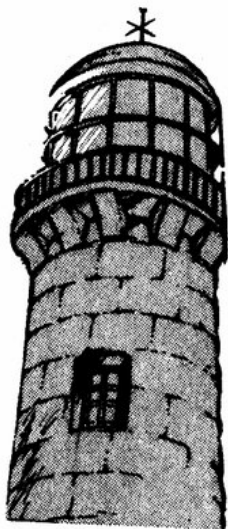
ゴロゴロゴロ
ゴロゴロゴロ

圧縮装置のスイッチを!!
マックダン

おりろ！
はやく〜!!

地下室へ

ジョニー
ジョニー

オー
オー
オー
オー
グー
グオオー
オー

…霧笛がなっている
今夜遠く岬を回る船は聞いたろう
そら…寂漠岬の灯台の霧笛がなっている
こちらは万事異常なし
それは
一晩中続いたのだった

翌日の午後には
救援隊がきて
地下室からぼくらを
救いだしてくれた

ええ…

あれは…？
いっちまったよ
ふかい海の
おくそこへ
ねえきみ
この世の中では
なにをいくら
愛しても
愛しすぎることは
ないって…
そう思うね
…ああそうさ
寂漠岬は
この先ですが
こんな霧では
海もみえま
せんよ
いいんだ
ありがとう
また
百万年も
待つんだ
彼は帰って
また
待つことを
続けるんだ

人間が
この世に

永遠に
待ちつづけ
るんだ